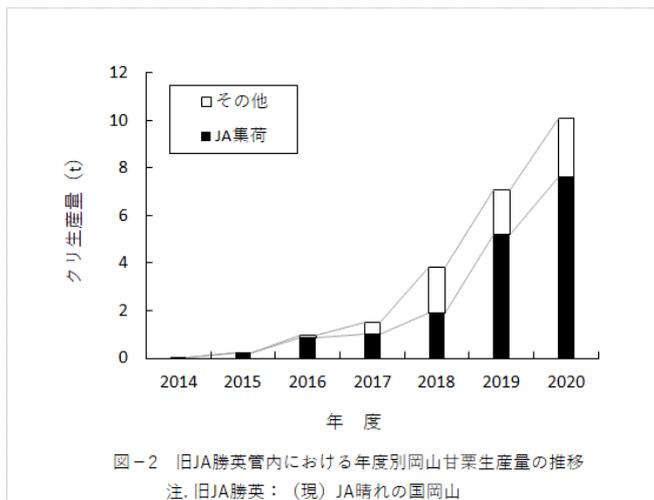


## 2 栽培

### (1) 適地の選定

#### 1) 気象条件

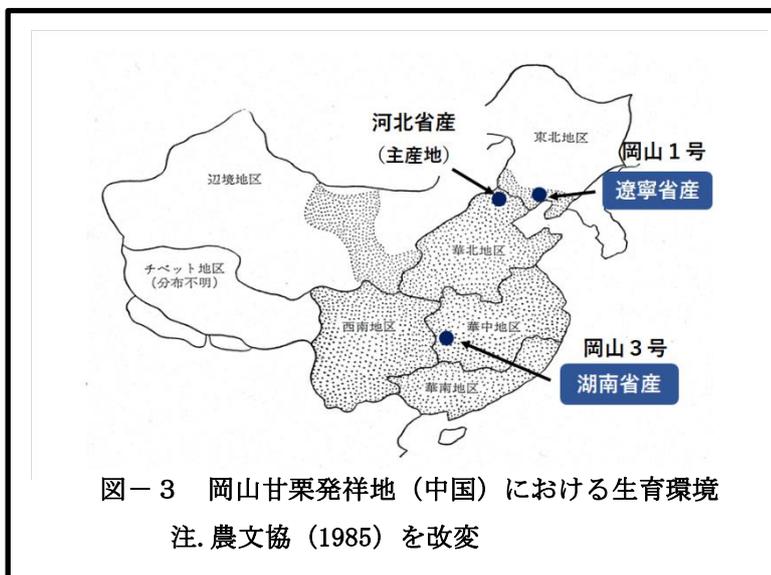


国内におけるニホングリの栽培範囲は、現在、東北～九州南部までであり、クリ属自体の適応範囲は広いと考えられる。

ニホングリ産地の年平均気温は 10～16℃、年間降水量は 1,000～2,600mm 程度となっているのに対し、チュウゴクグリ\*の最大産地である中国・華北地区(図-3 参照)の年平均気温は 8～12℃、華中地区は同 15～17℃である(猪崎 1978)。

なお、「岡山1号」は、河北省\*よりさらに北部に位置する東北地区の遼寧省産のチュウゴクグリの実生由来であり、同省(瀋陽市)の年平均気温は 8.5℃、年降水量は 690.3mm となっている(遼寧省瀋陽市 HP)。

一方、「岡山3号」は華中地区の湖南省産の実生由来であり、同省(長沙市)の年平均気温は 17.5℃、年降水量は 1,468.8mm となっている(湖南省長沙市 HP)。以上のように、「岡山1号」と、「岡山3号」では、その生育に好ましい環境(気温、年降水量)は異なる可能性がある。



2020年12月末時点で、「岡山1号」、「岡山3号」とともに、県北部（勝英地域）で既に成園化が実現している事例も確認されている（第19章 栽培園地の紹介 P88 参照）。

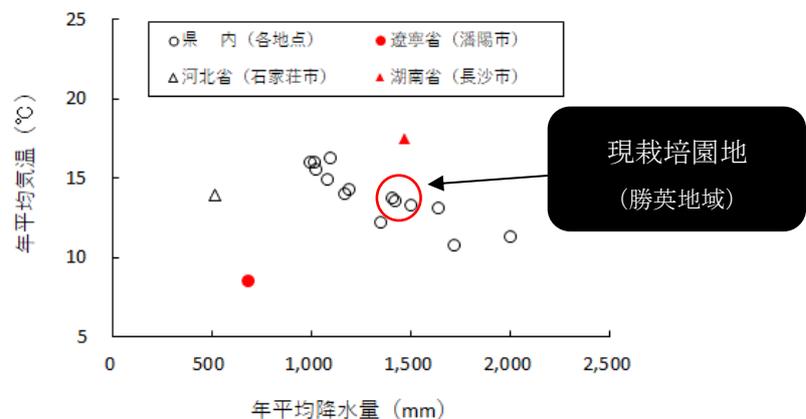
一方、県南部及び県中部の場合、成園化は、現在のところ、備前市佐山の事例に限定されているが、今後、徐々に植栽が進んでいくと予想される。これに合わせ、岡山県南部～中部における植栽データ及び気象データ（表－2、図－4 参照）についても、随時、収集していく予定である。

表－2 岡山県内主要地点の気象

位置別	地域別	地点	年平均降水量 (mm)	年平均気温 (°C)
県北部	勝英	奈義町	1,510.3	13.2
		美作市（今岡）	1,646.9	13.0
	津山	津山市	1,415.8	13.7
		真庭 真庭市（上長田）	2,010.9	11.2
	真庭	真庭市（久世）	1,432.0	13.5
		新見 新見市（千屋）	1,726.0	10.7
新見	新見市	1,354.3	12.1	
	県中部	高梁 高梁市	1,200.9	14.2
県南部	岡山	岡山市	1,105.9	16.2
		玉野市	1,003.9	15.9
	東備	和気町	1,174.4	13.9
		瀬戸内市（虫明）	1,086.1	14.8
	倉敷	倉敷市	1,028.6	15.5
	井笠	笠岡市	1,026.1	15.9
(参考)				
中国	東北	遼寧省（瀋陽市）	690.3	8.5
	華北	河北省（石家荘市）	517.1	13.9
	華中	湖南省（長沙市）	1,468.8	17.5

注1. 岡山県内の気象庁観測地点データ（1981～2010年）の平均値

注2. 中国3地点の気象データ（1971～2000年）は当該省各市データによる



図－4 岡山県内及び中国3都市の年降水量と年平均気温の関係

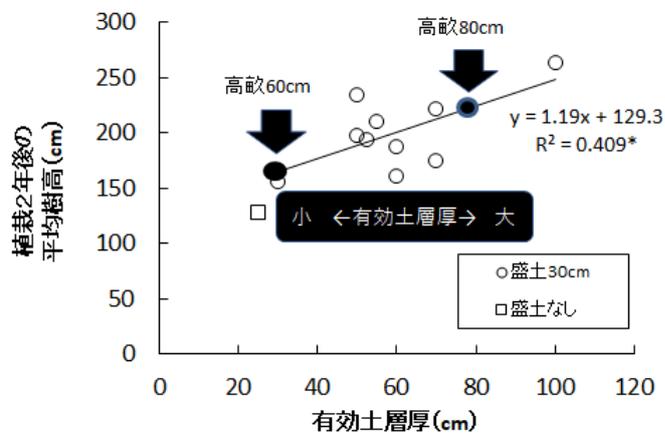
## 2) 土壌条件

- ・直根性（樹種）であることから、植栽適地は、「有効土層\*」（クリの根が侵入できる深さ）が60cm以上であることが望ましい（図－5 参照）。
- ・排水が良好であり、有機質に富む弱酸性土壌がよい。排水不良園や、有効土層が浅い粘土質土壌での栽培は避ける。
- ・黒色土壌では、栽培は可能であるが、生育はやや劣る。
- ・排水、あるいは、機械化（下草管理、病虫害防除）の面から、傾斜が15度以下の緩傾斜地での栽培が理想的である。
- ・水田跡地へ植栽する場合、排水対策が必須であるため、高畝\*造成を行う。畝高80cm以上が望ましいが、最低でも60cm以上の高畝を確保する（図－6 参照）。
- ・植栽候補地の適地を判定する場合、あらかじめ試掘して有効土層厚を調査し、その判断材料とする。
- ・植栽地の良否が将来の収穫を大きく左右することから（図－7 参照）、植栽前に十分に検討を行った上で決定する。



図－5 植栽適地（左）と不適地（右）の一例

注. 左側：有効土層厚 70cm 右側：同 30cm



図－6 「岡山1号」における有効土層厚と樹高との関係

出典：西山（2020a、2020c）



図-7 植栽適地の一例（勝央町河原地内）  
（左側：植栽時 右側：植栽5年目）

### 3 品種特性

#### （1）果実特性

- ・「岡山1号」の果実サイズは、在来品種とチュウゴクグリ（輸入栗：天津甘栗\*）との中間である（図-8 参照）。
- ・「岡山3号」の果実サイズは、チュウゴクグリ（輸入栗）と同サイズか、やや小さい。
- ・クリの横幅に占める「座\*」の割合は、両品種とも、ニホングリに比べ、明らかに小さい（表-3 参照）。
- ・両品種ともに、果頂部\*に「毛じ（もうじ）\*」がある（図-9 参照）。
- ・渋皮離れが良い（図-10 参照）。
- ・果肉の色（黄色）が濃い。
- ・甘みが強い。
- ・果実被害（虫害）が極めて少ない。



図-8 在来品種と岡山甘栗の大きさの比較